

関西圏地盤情報データベース研究利用報告書

研究課題	東大阪および大阪湾岸地域の地下構造の研究		
研究者	(所属と氏名) 京都大学大学院理学研究科 竹村恵二		
研究期間	27年10月 ~28年9月	報告日	28年10月10日
<p>研究目的：</p> <p>大阪堆積盆地の形成には、生駒断層活動と上町断層の活動、10万年単位の大規模な海進・海退が大きく影響している。本研究は、大阪堆積盆地周辺の生駒断層と上町断層の活動と10万年単位の大規模の海進・海退の影響評価のための経時的な情報把握をすることを目的とする。データベースを用いて、広域的な海成層の分布標高や各海成層間の標高などを系統的に処理し、累積変位等の評価を試みる。</p> <p>研究内容と成果：</p> <p>今回の研究では、主に生駒断層と上町断層に囲まれた東大阪地域を中心に実施した。</p> <p>大阪堆積盆地に豊富に存在するボーリングデータベースを用いて、間氷期における海進により堆積した海成粘土層を基準とした検討を行い、東西測線でのボーリングデータ解析により、その変位の分布から生駒断層の北端と南端の概略に位置が定まった。</p> <p>また、生駒断層の変位速度は、北端から約1kmの地域で最大値をとり、南部にかけて小さくなることが明らかになり、その最大値となる地域では、平地部で0.46mm/yrとなった。</p> <p>南北測線でのボーリングデータ解析により、堆積場で約0.18°で地下地層が南にも傾斜していることが明らかになり、この傾動は変位の累積性を伴うことが明らかになった。</p> <p>全測線でのボーリングデータ解析により、生駒断層周辺地域では、各海成粘土層が概ね北北東-南南西の構造を持ち、地下地層が東南東に傾斜していることが明らかになった。</p> <p>以上から、東大阪における地下での各海成粘土層の累積変位の様相が示され、東に分布する生駒断層の活動と、上町断層の運動が重なり合った地下形状の推定が明らかになった。</p> <p>これらは、2016年の第四紀学会で竹村により講演の一部として紹介された。</p> <p>また、京都大学理学研究科地球惑星科学専攻の修士論文の一部に、小野 温 (2016) : ボーリングデータベースを用いた堆積場での活構造の活動性評価—生駒断層の例— (非公開)、としてまとめられた。</p>			
<p>公開資料 (論文等) :</p> <p>竹村恵二 (2016) : 第四紀学と地質地盤情報. 日本第四紀学会 講演要旨</p>			

※貸出期間終了後、研究利用報告書 (本様式) と研究成果 (論文等) を提出してください。
 ※研究利用報告書は、KG-NETのHPで公開します。